

ブレインバンクに献体をご了承頂いたご家族皆様へ
(研究に関する情報)

当院ならびに関連施設では下記の臨床研究を実施しております。

本研究の対象者に該当する可能性のある方で、研究への協力を希望されない場合は、下記に記載されている研究の担当者までお知らせください。なお、研究への協力を希望されない場合は、いつでも拒否ができ、そのために診療上で不利益を被ることはありません。

研究課題名	Total parental nutrition(TPN)管理下での経静脈投与鉄剤の死後臓器における影響 (福祉村病院倫理委員会承認番号#353)
当院の研究責任者	福祉村病院長寿医学研究所 研究員 赤津 裕泰 (名古屋市立大学医学研究科 教授)
他の研究機関および各施設の研究責任者	名古屋市立大学大学院医学研究科地域療養薬学 特任准教授 川出義浩 学校法人立命館大学薬学部臨床分析化学 准教授 井之上浩一 徳島大学大学院医歯薬学研究部疾患病理学分野 教授 常山幸一
本研究の目的	Total parental nutrition(TPN)ではビタミンやミネラルの投与が欠かせない。しかしその指摘投与量に関しては未解決の問題が山積している。主要ミネラルである鉄は特に男性や閉経後の女性においては生理的な排泄機構をもっていない。その一日必要量は 7-7.5mg/day(男性)、6-6.5mg/day(女性)とされており本邦の微量元素製剤は 35 μmol/2mg/1A とされている。高齢者における終末期の TPN 管理症例は今後減っていくことが予想されるが短腸症候群等での症例ではそのエビデンスの構築が望まれている。福祉村病院では毎年 10 例以上の全身解剖が行われておりその中には長期にわたり TPN 管理下で微量元素製剤が投与されていた症例が蓄積されている。今回はこれらの症例の固定臓器を用いて鉄、その他の微量元素の体内蓄積とその関連因子の発現に注目し検討を加えたい。
対象者該当期間	福祉村ブレインバンクに保管されている全症例。
研究の方法	<ol style="list-style-type: none"> 1. 福祉村病院で全身解剖が行われた全症例の臨床記録より生前の栄養管理状態の割り出しを行う。 2. 経口、経管、軽静脈管理状況、機関とその間に用いられた経静脈微量元素製剤の投与状況の収集を行うとともに臨床検査データの収集を行う。 3. 全身臓器でのベルリン青染色を行い鉄の沈着状況を検索する。 4. 必要に応じて銅染色、その他鉄代謝、炎症、酸化ストレスに関連するマーカーや細胞標識抗体等を用いて免疫染色を行う。 5. 必要に応じて福祉村病院長寿医学研究所にて保管されている凍結臓器を用いて発症遺伝子(PCR 等)、発現蛋白解析(Western blotting,質量分析等)を行う。

個人情報の取扱い	長寿医学研究所個人情報管理者によって適切に管理される。
お問い合わせ先	名古屋市立大学大学院 医学研究科 地域医療教育学(秘書宛) 〒467-8601 名古屋市瑞穂区瑞穂町字川澄 1 TEL 052-853-8527 (内線 8527)
備考	